

2022年後半のグローバル市場の行方（下）



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米景気後退は避けられない公算も

2022年後半のグローバル市場の行方を占う上で、世界一の経済規模を誇る米国の動向も重要といえます。米国ではFRB（米連邦準備制度理事会）が、景気を犠牲にしてもインフレ抑制を目指す姿勢を示していることもあり、米国経済が先回りセッションに陥る可能性が高まっています。

こうしたなか、6月の米ミシガン大学消費者信頼感指数は過去最低を記録しており、市場では景気後退不可避との見方から、S&P500種株価指数は下落基調にあります（右上図）。

ポイント② 金融政策転換期待で年後半上昇？

6月29日時点でS&P500種株価指数の年初来下落率は19.9%と、年前半としては1970年以来の大幅下落となっていますが、年前半に15%超の大幅安となった年の年後半は株価が上昇しやすい傾向がありました。Bloombergでデータが遡れる1928年以降で同現象が示現したことは5回ありますが、全ての年で年後半に株価は上昇し、その平均上昇率は23.8%となっています（大幅高となった1932年を除いた4回平均では15.7%上昇、右下図）。

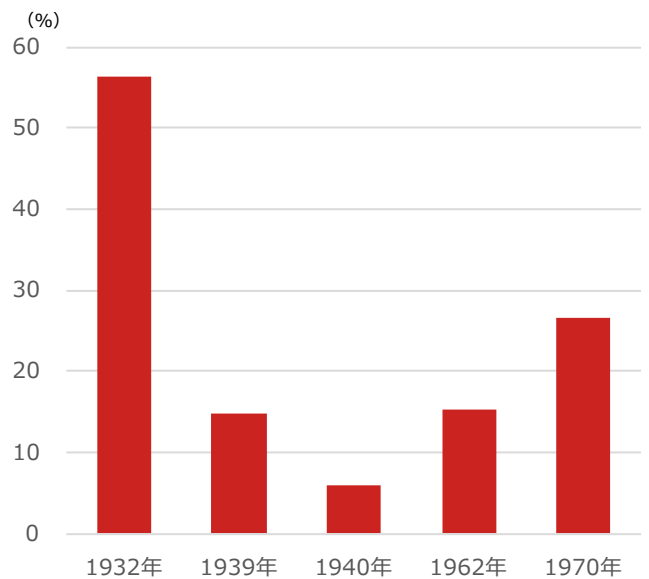
当面はFRBによる利上げ加速で、市場が不安定となる展開も想定されます。ただ、金融引き締めによって景気（需要）が鈍化し、インフレが落ち着いてくれば、FRBは①利上げ停止、②量的引き締め停止、③利下げ、④量的緩和再開、という4つの政策で、景気下支えを図ることができます。年後半にこうした現象が見られ始めれば、市場はFRBの政策転換を織り込む形で、落ち着きを取り戻す可能性があると考えられます。

ミシガン大学消費者信頼感指数とS&P500種株価指数



期間：（ミシガン大学消費者信頼感指数）1978年1月～2022年6月、月次
（S&P500種株価指数）1978年1月末～2022年6月29日、月次
・網掛けは景気後退局面
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500が年前半に15%超下落した年の年後半上昇率



期間：Bloombergでデータが遡れる1928年～2021年、半期
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。